

# エジプト学研究第 20 号 2014 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.20, 2014

## 目次

〈序文〉	吉村作治	3
〈調査報告〉		
2013 年 太陽の船プロジェクト 活動報告	黒河内宏昌・吉村作治	5
エジプト ダハシュール北遺跡発掘調査報告－第 19 次発掘調査－	吉村作治・矢澤 健・近藤二郎・西本真一・和田浩一郎	13
第 6 次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報	近藤二郎・吉村作治・柏木裕之・河合 望・高橋寿光	43
〈論文〉		
エジプト先王朝時代の穿孔技術に関する実験考古学的研究 －フリント製小型ドリルの切削能力と形状変化の観察－	長屋憲慶	59
〈研究ノート〉		
クシュの碑文を母系制として読む －即位の記録と「アララとアメン・ラーの契約」－	齋藤久美子	83
エジプト先王朝時代における石製容器の地域性	竹野内恵太	99
オブジェクト・フリーズ ( <i>frise d'objets</i> ) と出土遺物の比較 －装身具およびアミュレットを中心に－	山崎世理愛	115
〈動向〉		
争乱の中の大エジプト博物館建設と文化財保存修復をめぐる国際協力	高木規矩郎	131
〈活動報告〉		
2013 年度 早稲田大学エジプト学会活動報告		145
2013 年 エジプト調査概要		149
〈編集後記〉	近藤二郎	155

# The Journal of Egyptian Studies Vol.20, 2014

## CONTENTS

Preface	Sakuji YOSHIMURA	3
Field Reports		
Report of the Activity in 2013, Project of the Solar Boat	Hiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA	5
Preliminary Report on the Waseda University Excavations at Dahshur North: Nineteenth Season	Sakuji YOSHIMURA, Ken YAZAWA, Jiro KONDO, Shinichi NISHIMOTO and Koichiro WADA	13
Preliminary Report on the Sixth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition	Jiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Hiroyuki KASHIWAGI, Nozomu KAWAI and Kazumitsu TAKAHASHI	43
Articles		
An Experimental Approach to the Drilling Technology in the Predynastic Period: Cutting Capability and Reduction Patterns of Flint Micro-drills	Kazuyoshi NAGAYA	59
Reading the Kushite Texts in the Matrilineal Context: Enthronement Records and the Covenant between Alara and Amen-Re	Kumiko SAITO	83
Regional Variation of Stone Vessels in Predynastic Egypt	Keita TAKENOUCI	99
Comparison between the <i>frise d'objets</i> and Burial Goods: Focused on the Ornaments and Amulets	Seria YAMAZAKI	115
Report	Kikuro TAKAGI	131
Activities of the Society, 2013-14		145
Brief Reports of Fieldworks in Egypt, 2013		149
Editor's Postscript	Jiro KONDO	155

## 2013 年 エジプト調査概要

### 1. 調査期間および調査参加者（敬称略）

#### (1) 太陽の船調査

調査期間： 2013 年 1 月 1 日～12 月 31 日（継続中）

調査参加者： 吉村作治、黒河内宏昌、吉村龍人、ユーセフ・カーリッド、岩出まゆみ、佐々木愛（以上 NPO 法人太陽の船復原研究所）、アフィフィ・ローハイエム、アイーサ・ジダーン、モハメド・ムスタファ、ディア・エルディン（以上エジプト考古省）、青木繁夫、イザベラ・ウフマン、アリ・アスファル、フセイン・バシル、フセイン・カマル、オサマ・アブエルヘル、ムハンマド・アンワル、エルシャイマ・エルサイドエイド、アマル・リファート（以上サンプル分析の総括ワークショップ参加者）、シェリーフ・アブデルファタハ、ムハンマド・フセイン、エザト・フセイン（以上現場施設の整備）、鎌倉真音、柏木裕之、高橋寿光、山田綾乃（以上部材の取り上げ作業）

#### (2) ルクソール西岸・アル＝コーカ地区調査

調査期間： 第 6 次調査 2012 年 12 月 23 日～2013 年 1 月 12 日

調査参加者： 吉村作治、近藤二郎、柏木裕之、河合 望、高橋寿光、竹野内恵太、福田莉紗

#### (3) ダハシュール北遺跡

調査期間： 倉庫整理作業 2013 年 2 月 6 日～3 月 4 日

調査参加者： 吉村作治、近藤二郎、矢澤 健、和田浩一郎、山田綾乃、竹野内恵太、山崎世理愛

### 2. 調査概要

#### (1) 太陽の船プロジェクト

##### ① サンプル分析の総括ワークショップ

2013 年 3 月 27・28 日、クフ王第 2 の船部材サンプルの強化処理に関する追加テストの成果を、海外の専門家も交えて協議し、サンプル分析の総括をするワークショップを、JICA の支援を得てカイロにて開催。「ナノセルロース」の有効性が確認される一方、文化財保存への使用例がないことから、現場でさらに詳細な実験的作業（パイロットワーク）を行うこととした。

##### ② 現場施設の整備

部材取り上げのためのクレーン、ならびに取り上げた部材の強化処理を行う保存処理場のデザインを決定し、見積もりをとった。

##### ③ 部材の取り上げ

2013 年の 6 月より部材の取り上げを開始したが、部材の強度は予想以上に落ちており、ピットの中で和紙を用いたフェーシングにより一時的補強を行うこととした。またピットから取り上げた部材を、ピット内の 85% 前後の湿度から 60% 前後の環境へと徐々に適応させる安定化作業を開始。部材が環境に馴染んだの

ちに強化処理に着手することとした。

一方、2013年6月下旬から始まったモルシ政権打倒運動に伴う治安悪化により、プロジェクトは一時ストップしたが、9月には宿舎と現場周辺の治安も回復し、作業を再開することができた。

#### ④広報活動

シンポジウム「クフ王の船取り上げに向けて」（2013年1月25日（金）、於早稲田大学小野梓記念講堂）と、エジプトフォーラム22「太陽の船プロジェクト再開！～エジプトの騒乱を乗り越えて～」（2013年11月10日（日）、於早稲田大学大隈記念講堂）を開催。また吉村作治監修、RKB毎日放送制作のTV特番『新発見！



大型の部材を取り上げている光景



取り上げた部材を視察する吉村先生（右から2人目）と高橋隊員（右端）

ピラミッドに隠された真実を解け！太陽の船大発掘スペシャル』が、12月8日（日）にTBS系列にて全国放映された。

## (2) ルクソール西岸・アル＝コーカ地区調査

ルクソール西岸（ネクロポリス・テーベ）のアル＝コーカ地区での調査は、2007年12月から開始され、2012年12月～2013年1月にかけて第6次調査が実施された。この調査の目的はアル＝コーカ地区に位置する新王国時代第18王朝アメンヘテプ3世治世末期の高官ウセルハトの墓(TT47)を再調査することにより、この墓の正確な平面プランおよび墓内装飾・碑文を明らかにしようとするものである。第6次調査では、ウセルハトの前庭部南側に厚く堆積する砂礫の本格的除去を実施した。この南側の砂礫の堆積は、第47号墓前庭部のクリーニングを実施しても常に南側から砂礫が流入し、前庭部を再び覆ってしまうため、前庭部の南側斜面を岩盤まで砂礫を除去し、岩盤上に日乾煉瓦によって崩落砂礫を止める壁体を設置した。これにより南側から前庭部への砂礫の崩落を止めることに成功し、今後、前庭部を覆う砂礫の除去作業を容易にすることが可能となった。この作業と並行して、第47号墓の前室奥壁（西壁）南側付近での発掘調査を実施した。この部分はハワード・カーターによりエジプト考古局年報(Annales des Royaux d'Arts et d'Hitorir, Brussels)に収蔵されている王妃ティイのレリーフが存在していた場所にあたり、第5次の調査でキオスクに腰掛けるアメンヘテプ3世とティイ王妃の図像と壁面が削り取られている様子が確認された。さらにレリーフの状態を確認すべく下部に掘り進め、クリーニングを継続した。その結果、新たに玉座に座るアメンヘテプ3世の図像の詳細や未完成の被葬者ウセルハトの図像の存在が明らかになった。

なお、調査は2012年度早稲田大学特定課題研究B(2012-026)「テーベ岩窟墓第47号(ウセルハト墓)の研究」(研究代表者：近藤二郎)の助成により実施された。



前室奥壁（西壁）のレリーフ



第6次調査終了状況

### (3) ダハシュール北遺跡調査

サッカラにある考古省査察局の倉庫にて、ダハシュール北遺跡出土遺物の整理作業を実施した。対象は、2008年第16次調査でシャフト110から発見された4体の黒色の人型木棺の実測作業と、過去の調査で出土したシャブティ、アミュレット、ビーズなどの実測、写真撮影である。

人型木棺は、イリセルアアとタウブパウマアトの2人の人物に属する二重木棺である。全面が黒色に塗られ、黄色で細部の図像や銘文が表現されており、良好な保存状態で発見された。黒色の人型木棺は新王国時代第19王朝以降見られなくなるが、シャフト110の木棺は第19王朝から第20王朝に年代づけられる土器、シャブティボックスが共伴して出土しており、メンフィス地域におけるラムセス王朝期の葬制を語る上で重要な遺物と言える。過去の調査で全体の外形の実測と写真撮影は行っており、今回は細部の特徴の記録や図像、銘文のトレースを実施し、過去のデータと統合する作業を行った。



倉庫内での木棺実測の様子



イリセルアアの外棺

### 3. 謝辞

2013年度も早稲田大学古代エジプト調査隊の活動に対し多くの企業様よりご支援をいただきました。ここに記して感謝いたします。

(株)ニトリホールディングス、(株)ダイドードリンコ、(社)全国優良石材店の会、RKB毎日放送(株)、(株)熊谷組、(株)エアーリンク、キリンホールディングス(株)、サントリーウエルネス(株)、(株)ポニーキャニオン、(株)ワイズマート、(株)アケト

2014年度も調査・研究そしてエジプト学の普及に邁進してまいりますので、今後ともご支援、応援のほど宜しくお願い申し上げます。

エジプト学研究 第20号

2014年3月31日発行

発行所 / 早稲田大学エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.20

Published date: 31 March 2014

Published by The Egyptological Society, Waseda University

1-104, Totsuka-chyo, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Institute of Egyptology, Waseda University